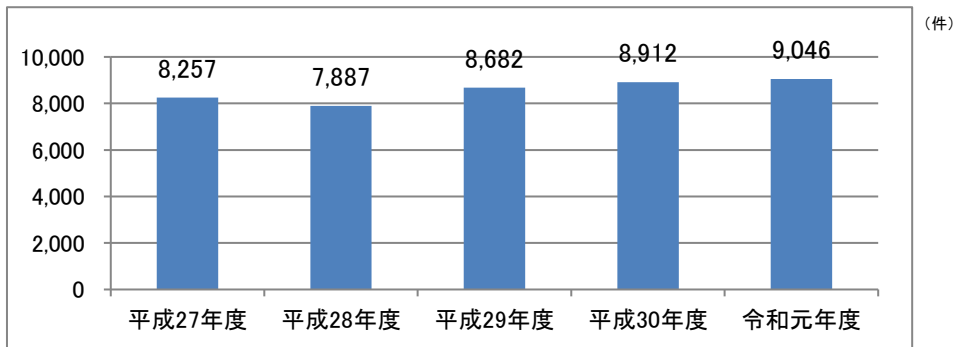


17 病理組織診断件数

○項目の解説

病理診断の結果に基づいて、治療の必要性や治療方法が選択されます。病気の最終・確定診断がどの程度行われているかを表す指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

病理組織診断件数は、平成27年および平成28年の8,000件前後から平成元年にかけて漸増傾向が継続され、令和元年に9,000件を突破し、この3年で約1,000件(13%)増となっています。

来年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、病院受診者数ならびに手術件数の減少が予想される中、それに伴う病理組織診断件数の減少が危惧されます。一方で大学病院の特性上、生検検体に対する手術検体の比率が高く、診断困難な難解症例が多数みられると評価しており、特記すべき事項と考えます。

○定義

当該年度1年間の医科診療報酬点数表における、「N000 病理組織標本作製(T-M)」および「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)」の算定件数です。

入院と外来の合計として、細胞診は含めません。

○算式

実数